

嘉麻市社協だより

えがが

No.117

社会福祉法人 嘉麻市社会福祉協議会

〒820-0205 嘉麻市岩崎1143番地3 稲築住民センター内

TEL 0948-42-0751 <http://kama.syakyo.com>

FAX 0948-83-8005 info@kama.syakyo.com

[f https://www.facebook.com/kama.swc](https://www.facebook.com/kama.swc)

発行日/2015.11.1

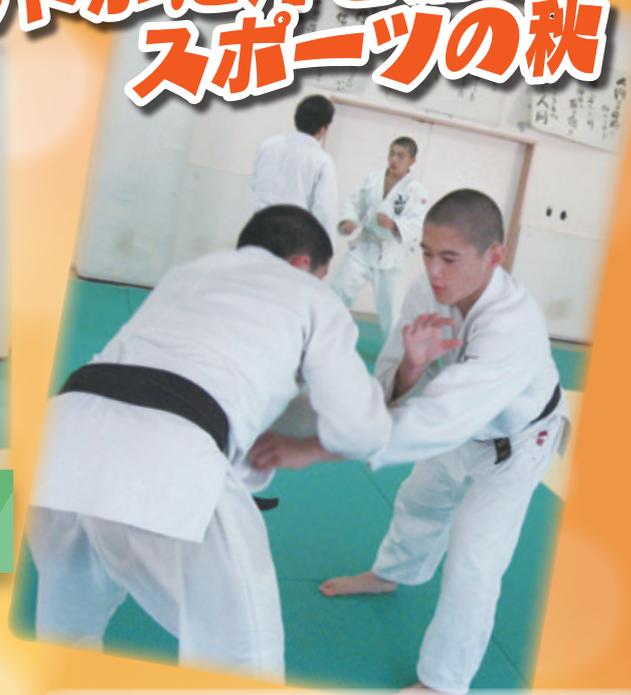


次の大会に向けて目指せ得点力アップ
～碓井中学校サッカー部～

さわやかに汗を流す スポーツの秋



3回目の全国大会出場に向けて猛練習
～山田中学校柔道部～



県大会出場を目標に一球入魂
～嘉穂中学校ソフトテニス部～



～法人設立10周年記念事業 支えあいのまちづくりサポーター養成講座 第6回～

いつまでも住み慣れた地域で暮らしたい
～認知症を考える～

9月25日(金)、夢サイトかほで、標記講座を開催しました。今回は、宅老所よりあいの施設長 村瀬孝生さんをお招きし、老いを迎える方たちからの問題提起をしてもらいました。54名が参加され、ありのままで老いていくことの大切さを学びました。



老いるとは、理屈どおりにはいかない世界である

23歳で特別養護老人ホームに就職し、それから28年介護職として働いています。老いを迎えると、だれしも物忘れや勘違い、思い込みが出てきます。過去にタイムスリップされている方は、過去のフィルターをとおして今を生きておられます。

また、老いが深まると、自分の知る事実が、他者が知る事実と異なることが増えます。自分かと思うことが違ふと言われても、そう簡単に変えられないようです。

「老い」や脳トレーニング

先日、Aさんのお宅を訪問しました。ご家族と一緒にかけ算の脳トレーニングをしている最中でした。しだいにご本人にやる気がなくなり、一生懸命なのはご家族だけになりました。奥様が「2x5は？」、「100-10は？」を何度も繰り返す中、はっと気づかれたように「2号はおらん」と言われ、大爆笑になりました。思

いやりが深かったAさんの二面を垣間見た出来事でもあった気がします。一生懸命脳トレーニングをされている方を否定するつもりはありませんが、老いると脳機能は低下するものです。今は、家庭や地域にそのことを受け入れる余裕ややさしい雰囲気がなくなくなってしまっているようです。老いることは、まじめでこついで切ない世界のように感じています。

認知症について、立ち止まって考える

時間と空間の見当がつかなくなったり、物忘れがあったり、気になる行動があったりするとすぐに異常と診断され、認知症とひとくくりにされているように感じます。私は認知症という言葉は使いません。ぼけていると思っっています。ぼけというのは分からなくなったのではなく、人間の変様です。決して病気ではありません。

現代の社会は、元気であることを異常に求めてきます。マイナス部分だけを考えるのではなく、できなくなるプロセスを

認めることも必要なのではないのでしょうか。

介護は、直面しないと、深刻に考えることができないかもしれませんが、老いていくといつかは向き合う日が来ます。他人事ではありません。

ありのままの老いを地域でどう支えていくか

宅老所よりあいの利用者さんの中に、どうしても外に行きたくなる方がおられます。でもよりあいの出口に鍵はかけません。そこで、利用者の方が自由に外に出ることができ、安全を守れるようにと、ご本人とご家族の許可をもらい、見かけたら教えてくださいという写真入りのカードを地域の方に配布しています。地域が一体となってみんなで見守ること、そういった雰囲気や地域でつくるのが大切だと感じています。

老いるということを理解したうえで自分ができること、地域でできることをみなさんが考えていくことが、ありのままで安心して地域で暮らすことにつながっていきます。

誰もが安心して暮らせるまちづくりのために

かま権利擁護センターのご案内

かま権利擁護センターは、高齢者や障がいを持った方の権利を擁護することを目的に設立されました。次のような困りごとの相談に応じています。

① 1人でいろいろなことを決めることに自信がない方からの相談

訪問販売で、高価なものを何度も買ってしまふ。どうしたらいいか。

成年後見制度を利用するようにすすめられたが、どうしたらいいかわからない。

もの忘れがあり、通帳やはんこをどこに置いたかわからなくなる。

年金や手当、給料をもらうと、すぐに使ってしまう、残らなくて困っている。



② これからのことを今のうちに考えておきたい方からの相談

将来のことを考えると不安になる。今からできることはないだろうか。

自分にもしものことがあった時の財産をどうするか、きちんと決めておかないで大丈夫かな。

社会の役にたつようなことをしてみたい。



まずは、かま権利擁護センターにご相談ください。TEL.0948-42-0751

センターの職員がご自宅を訪問して、どんなことにお困りなのか、お話を伺います。そして、その困りごとの解決に向けて一緒に考えます。

A 被後見人の身内や親しい友人の慶弔けいじょうに関する支出については、常識的な金額の範囲内であれば、被後見人の財産から支出してかまいません。ただし、支出の必要性や相当性について、慎重な判断が必要です。



Q 被後見人の身内や知人への香典や祝儀等は支出できますか？

Q



Q & A
成年後見制度



本会では、日々の活動を紹介したり、いろいろな福祉情報を素早くお届けしたいという思いで、ホームページで、日記『嘉麻市社協のブログ』を書いています。そこから抜粋してきた記事をご紹介します。ぜひご覧下さい。 <http://kamasyakyo.chobi.net/wordpress/>

2015年9月23日(水)

稲築地区の樋渡行政区で、子ども相撲大会が行われました。

昔は、同じ日に開催される山野の楽の相撲大会に樋渡からもチームを作って参加していたのが始まりだそうです。

その後、樋渡の行事として独立して、今日まで毎年欠かさずに開催されています。

今年も3歳から小学6年生までのおよそ30名が参加し、親御さんや地域の方が声援を送る中で、熱戦を繰り広げました。

勝っても、負けても、みんなとても清々しい表情をしていたのがとても印象的でした。(T)



2015年9月26日(土)

今日は、小竹町のNPO法人ちくほく共学舎『虫の家』で、第36回筑豊民塾が開催されました。事務局長の高石さんから、「今どきの若い者(もん)が語る憲法・安保法案の話」という主題で自由に想いを述べてほしい」と依頼をいただいたので、発言者として出席しました。まず、高石さんから、「今回、若者や女性、他にも多くの人が反対の声をあげたにもかかわらず成立してしまった安保法制ですが、いわゆるフツーと言われる若者や学生がわたくし発の運動を行っています。今日は若い人たちの声を聞き、みんなで交流しながら私たちの側の問題を考えてみませんか」と問いかけがありました。

まず私が発言したのですが、社協で取り組んでいることや社協に入って変わった自分の価値観等を含めて自己紹介をしました。そして、戦争は社協が目指す安心して暮らせる地域づくりを根本からこ

わしてしまつたものであり、「瞬にして「権利」「福祉」を奪う私たちソーシャルワーカーの最大の敵だと思ふことを伝えました。また、アーサー・ビナードさんの話を聞いて、言葉の使い方や自分の立ち位置を考え、事実や歴史をしっかりと知り、きちんと理解して伝え、共有することの大切さを学んだこと、戦争を知らない世代だからこそ自分がどう行動するか問われていると考えることなど、私なりの話をしました。

九条の会筑豊世話人の大分智見さんからは、思考を停止させずに自分の意見をこれからも発信し、もつといろんな人と話すことが社会を変えていく力になるのではないかという話がありました。水保・福岡展実行委員の筑後谷美翔さんは、職場の中で政治の話がしづらい状況のおかしさやどこかに体裁を気にしてしまっている自分があることを話されました。西南学院大学生で、

FYM(Fukukoka Youth Movement) 今の社会政治

に疑問ありと立ちあがった福岡の若者有志の会の発起人である熊川果穂さんは、水保のことを学んでこれまで平和だと思っていた日本がそうではないことを知り、何かの犠牲の上で生きていることを感じることはとてもきついことだがでもそこに想いを馳せることが大事だと思ふことを話されました。みなさんの話には、はつとさせられ、とても勉強になりました。

その後は、参加された方から意見や感想が述べられ、いろんな想いを共有することができた時間でした。

最後に高石さんから、諦めるのではなく、今日から一歩踏み出せるのではないのでしょうかと話があり、私も今日からどんな行動ができるか、どう変わるのか、そう問い続けたいと思いました。(M)



2015年10月8日(木)

今日は、稲築住民センターにて、第1回社会福祉法人ネットワーク会議を開催しました。市内の12法人から出席があり、社会貢献活動の取り組み内容や課題、情報交換に向けて意見交換をしました。

地域には様々な課題があることを共有していくなかで、二つの法人だけでは解決できないことでも、複数の法人が連携することでより解決に近づくのではという意見がありました。今後についても、このような会議を重ね、制度の狭間で困っている方たちの課題を解決するために、連携して取り組んでいくことが決まりました。

市内の社会福祉法人が一丸となり、嘉麻市ならではの取り組みに向けて進んでいきます。(K)

ご相談ください 空き家に関する困りごと

市内には、たくさんの空き家があります。
この空き家の存在が、持ち主の方だけでなく、ご近所の方にとっても、「溜まっている郵便物に火をつけられないか」、「草が生い茂って、蛇が出てきそう」、「台風や大雨で被害があった時にどこに連絡して良いかわからない」など、心配ごととなっていることも少なくありません。



本会では、空き家管理住まいるサービスを実施しています。
このサービスは、月に一度、空き家となっている家屋を訪問して、敷地内外のチェックや通水、換気などを行うほか、大雨や台風などの有事前後の見回りなどを行うもので、現在7軒を管理しています。
空き家に関することでお困りの方は、ぜひご相談ください。

空き家管理住まいるサービスの概要

対象家屋	市内にあり、本人、配偶者、子、または本人の父母のいずれかが所有者となっている家屋
利用できる方	次のいずれかの理由で、家屋の管理ができない ①市外、県外在住 ②長期出張、転勤 ③入院、施設入所 ※本会の会員(年額1,000円)への加入が必要です。
サービス内容	基本サービス:月1回 通風、通水、内部・外部のチェック、郵便物の整理・転送 オプションサービス:希望に応じて実施。庭の草刈り、剪定など
利用料金	基本サービス:3,000円/月 オプションサービス:内容により異なりますので、事前に見積もりを提示します。
その他	・利用に際しては、打ち合わせを行い、サービス計画を作成します。 ・毎月サービス実施後には写真付きの報告書を郵送します。 ・台風や大雨などの有事先後には巡回して状況を確認し、異状があれば連絡します。

お問い合わせ先 **社会福祉法人 嘉麻市社会福祉協議会** 電話 0948-42-0751

支えあいのまちづくりサポーター養成講座のご案内

今年度は、嘉麻市社協が設立して10周年の節目の講座を毎月1回開催しています。この講座をとおして、少数者の側にたった問題を提起し、市民のみなさんと様々な課題を共有し、支えあいのまちづくりのために必要なことを学んでいます。次回の予定は右記のとおりです。

■第9回テーマ 児童虐待の被害と加害 ~経験者として~

講師：虐待経験者
日時：12月11日(金) 13:30~15:30
場所：夢サイトかほ 大研修室
初めての参加も大丈夫です。お気軽にお問い合わせください。

《お問合せ先》嘉麻市社会福祉協議会 ☎0948-42-0751

「読めば答えが見つかるかも」 社協だよりクイズ

「広報紙えがお」を読んで、次のクイズにお答えください。正解者の中から抽選で2名の方に、図書券(千円分)をプレゼントします。

問題

成年後見制度を利用したいがどうしたらいいかわからない場合は、次のうちのセンターで相談を受け付けているでしょうか。

- (1) かま障がい者地域生活支援センター
- (2) かまボランティア市民活動センター
- (3) かま権利擁護センター

●応募方法

①クイズの答え、②広報紙の感想、③郵便番号・住所、④氏名、⑤年齢、⑥電話番号を記入の上、11月30日必着までにハガキ、またはEメールにて応募ください。

●送付先

T 020-02005
嘉麻市岩崎1-4-3番地3
嘉麻市社会福祉協議会
E-mail: tiki@kama-syakyo.com

●前号のクイズの答え (2)

障害者の権利に関する条約の中に定められている、障がいをもつ方ひとりに応じた変更や調整をするという考え方は、「合理的配慮」でした。

応募のあった方から社協だよりの感想をいただきましたので、紹介します。

いつも拝見しています。心を打たれる内容が多いです。戦争の恐ろしさは、子ども、孫達にも伝えていきたいと思いました。

アーサー・ビナードさんのお話から、自分の立ち位置を考えさせられました。

※応募者の発表を掲載して代えはいたしません。

みんなの思いを受け止めて 街頭募金ボランティア

10月2日から4日までの3日間、赤い羽根共同募金の街頭募金活動が市内のスーパーやコンビニエンスストアなどの店頭で実施されました。

この活動には、市内各地区の民生委員児童委員や稲築地区福祉推進員、ボランティアグループや当事者組織、高校生など、延べ166名が募金ボランティアとして協力しました。

近畿大学附属福岡高等学校3年の末次遙さん、大森優花さんは、この広報紙「えがお」のボランティア募集記事を読んで応募し、初めて活動に参加しました。

二人は最初はとても緊張している様子で、声も小さめでしたが、少しずつ慣れてくると、積極的に笑顔で呼びかけられていました。

店先を通りかかった方々はその元気の良さに立ち止まり、募金されていました。

終了後、二人に感想を伺うと、「小さな子どもたちも募金してくれて、とてもうれしかった」、「めっちゃ楽しかった。とてもいい経験になりました」と笑顔で語ってくれました。



笑顔で呼びかける末次さんと大森さん



ボランティア情報

冬休み期間中のボランティア

本会が実施する障がい児日中一時支援事業で、子どもたちと一緒に遊んでいただける方を募集しています。

日 時 平成27年12月25日(金)～平成28年1月7日(木)
(12月29日～1月3日及び日曜日を除く)
※午前8時30分～午後5時の間で活動可能な時間帯で構いません。

場 所 嘉麻北日中一時支援事業所
(鴨生339 嘉穂特別支援学校横)

内 容 障がいのある子どもたちの遊び相手、宿題の補助など

備 考 動きやすい服装、時間帯によってはお弁当、飲み物をご準備ください。

イベント情報

嘉穂特別支援学校アート展

今年で19回目となる嘉穂特別支援学校アート展が開催されます。児童・生徒のみなさんが日ごろの学習の中で制作した約200点が展示されます。入場は無料ですので、ぜひご来場ください。

記

期 日

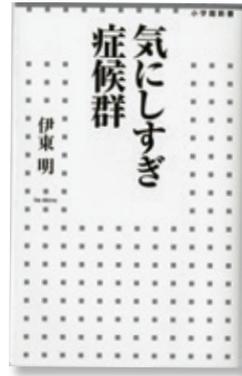
平成27年11月25日(水)～11月30日(月)
午前9時～午後9時 (最終日は午後3時まで)

場 所

イオン九州(株) 穂波店 1階ふれあい広場
(飯塚市枝国長浦666番地48)



気にしすぎ 症候群



著者：伊藤 明
出版社：小学館

気になる物事というのはどんな人にもあると思います。明日の天気や家族の健康、他人の顔色、事故のニュース、国内外の政治の動き、外国でのテロ、環境問題等々。

この本では、気にするという行為そのものは生き残るための「リスク回避」ですが、気にしすぎは

12月の総合相談

法律相談は予約が必要です。
先着順となっていますので、
お早めにお申し込みください。

法律相談

と き：12月3日(木)
13:00～16:00
ところ：山田ふれあいハウス

と き：12月17日(木)
13:00～16:00
ところ：稲築住民センター

心配ごと相談

と き：12月9日(水)
13:00～15:00
ところ：稲築住民センター

と き：12月16日(水)
13:00～15:00
ところ：稲築住民センター

嘉麻市社会福祉協議会
☎0948-42-0751

「過度なリスク回避」であり、気にすることで自分が生きていく上での不安を全て排除できるといふ思い込みから来ると述べられています。

現代社会はメディアやインターネットにおいて様々な情報が溢れています。新聞を読む、テレビを見る、あるいは検索をすることで情報はすぐに手に入ります。平均貯蓄額、食品添加物の情報、環境問題、SNSでは個人のプライベートなことまで。それらの情報が即座に入ってきてしまうがゆえに他人と比較し、必要以上に自分の状況を悲観的にとらえてしまうことで「気にしすぎ症候群」になってしまつとも筆者は主張しています。

そんな「気にしすぎ」を治す方法は、まず自分が気にしていることに気づき、そこからそれぞれのタイプによって対処をし、気にする時間と量を削っていくという方法があること、「気に治すのではなく徐々に段階を踏んで治していくことが一番の近道であると述べられています。

日々を過ごしている中で「気にしない」ことはできませんが、「気にしすぎ」の自分があることを受け止めながら、少し考え方を変えたいと思います。

(まる)

炭鉱の記憶

No. 104



碓井地区六四田^{むしだ}行政区の組坂英昭^{ひであき}さんから、左の写真を提供いただき、話を伺いました。写真は、昭和26年頃、六四田からすぐ近くにある久恒工業^{ひさね}炭産の全盛期の時代のものです。当時、この地域は久恒、日吉、昭嘉、笹原、平山等の炭産に囲まれていたもので、小学校の生徒も半分以上が炭産で働く家の子どもでした。15時頃、自転車に乗った紙芝居屋^{ひやしし}がやって来るのを見ると、子ども達の家から出てきて拍子木^{ひやしし}を叩きながら呼びかけました。話が始まる前に販売される水あめもみんなの楽しみで、お小遣いの5円を握りしめて行っていたそうです。六四田は当時から10軒程の少ない地域で、写真のようにほとんどの人が集まって来ていました。

他にも、当時の六四田地区の人が久恒工業炭産にあった売店で買い物をしていたり、炭産の所であった風呂場^{風呂場}で入浴していたこと、会館もあり映画を見に行っていたことなどを伺いました。

組坂さんは、紙芝居、「ママ、パッチン」等の楽しかったけど、いつも地域のみんなが集まり仲良く楽しく過ごしていたことを懐かしく振り返られ、炭産に馴染みが深く、いろんな思い出が詰まったこの地域がとても大切だと話してくださいました。

炭産時代の懐かしい写真や思い出などを募集しています。
嘉麻市社会福祉協議会までご連絡いただければ幸いです。
☎0948(42)0751

今月のえがお

最近“えがお”に
なった出来事を
教えて下さい!!



たはら ひろあき
田原 宏高さん

友達と集まる時が楽しい時間です。みんなでいろんな話をして笑顔になります。



せと いつお
瀬戸 五六さん

今年、喜寿を迎え、子どもや孫にお祝いをしてもらいました。靴のプレゼントがとても嬉しかったです。



やまだ れいか
山田 れいなさん

10月11日に山田中学校吹奏楽部の定期演奏会がありました。最後にみんなが楽しく演奏することができて良かったです。

山田ふれあいハウスをご活用ください!

山田ふれあいハウスは、無料のホールの他、最大30名が利用できる会議室を備えています。趣味のサークルや地域の団体の活動にぜひご利用ください。

また、2階には子育てリユースセンターを設置し、使わなくなった子ども服、中学校や高校の制服など子育て用品を揃えていますので、お気軽にお立ち寄りください。

なお、会議室の利用は事前に申し込みが必要となりますので、ご連絡をお願い致します。

- 会議室使用料金 1時間あたり 250円
- 冷暖房使用料金 1時間あたり 450円



連絡・問い合わせ先/山田ふれあいハウス
嘉麻市上山田502番地6 TEL 0948-52-1847

嘉麻市 社会福祉協議会指定 葬祭場紹介

ひさつね会館

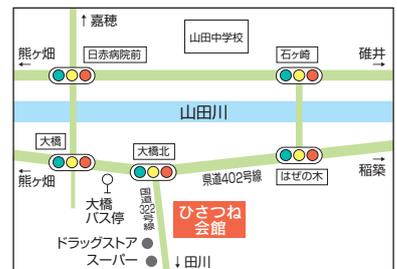
嘉麻市上山田971-4 ☎ (0948) 52-0758



ひさつね会館では、経験豊かなスタッフが誠心誠意、真心を込めて、故人の旅立ちのお手伝いをさせていただきます。

お客様のご予算に合わせて適切なプランを提供いたします。その他事前相談も承っておりますので、お気軽にお問い合わせください。

葬儀申し込み時に、「嘉麻市社会福祉協議会指定でお願いします」とお伝えください。葬儀にかかる費用の一部について割引を受けることができます。



嘉麻市社会福祉協議会指定葬祭場は、ひさつね会館を含め、市内に8ヶ所あります。

いすや会館	☎57-4444	おかむら葬祭岡村会館	☎42-4420
セレモニーホールおおつか	☎52-1212	飛鳥会館 南斎場	☎42-4241
かほ葬祭 あじさい会館	☎62-5566	きど葬祭やまさ碓井斎場	☎62-4499
善光会館 稲築会場	☎83-5000		

みなさまの善意、心より厚く、
お礼申し上げます。

香典返し・寄附

9月1日～9月30日受付分



●香典返し

〔神幸〕

親族 西岡 耕一郎 様
故 西岡 愛子 様

〔西川〕

親族 吉村 綾子 様
故 三好 長 様

〔木城〕

親族 吉田 さつき 様
故 吉田 広人 様

〔中央〕

親族 有馬 真佐子 様
故 有馬 英二 様

〔古河〕

親族 松岡 親治郎 様
故 松岡 繁 様

〔下牛隈〕

親族 石井 辰子 様
故 石本 則行 様

〔千手〕

親族 村上 道弥 様
故 村上 ヤス子 様

〔飯田〕

親族 永島 春美 様
故 永島 修身 様

●寄附

〔一般寄付〕

嘉穂の名水愛好者一同 様
神幸 かいだ美容室 様

〔子育てリユース〕

漆生東 匿名 様
百々谷 佐藤 麻美 様
木城 匿名 様

大隈

大隈 大里 理子 様
上半隈 匿名 様

牛隈北区

牛隈北区 永末 仁美 様
飯塚市 廣瀬 陽子 様

飯塚市

飯塚市 樋口ますみ 様
飯塚市 和智 倫子 様
飯塚市 笛田 和美 様
飯塚市 匿名 様

〔アルミ缶〕

漆生南部 岩田 勇治 様
漆生南部 市原登志彦 様
漆生南部 西岡 聖 様

漆生南部

漆生南部 西田 幸子 様
口春 篠崎 哲郎 様
鳴生第一 花村 誠市 様

枝坂

枝坂 森 章枝 様
枝坂 匿名 様
枝坂 匿名 様
神幸 匿名 様

〔リングフル〕

漆生中央 田中茶舗 様
漆生中央 匿名 様

鳴生北町

鳴生北町 山崎 恵子 様
大橋 姉川 亮太 様

古河

古河 甲斐 良子 様
中益 匿名 様

芥田

芥田 大野スマ子 様
埼玉県 福岡 侑弥 様

鎌田病院

鎌田病院 夢サイトかほ 様
鎌田病院 匿名 様

〔古切手〕

鳴生町 鬼塚 喜好 様
中益 匿名 様

嘉麻市福祉事務所保護課

嘉麻市福祉事務所保護課 教育ナビゲーション(株) 様
古河 塚原 京子 様

〔アルミ〕

古河 塚原 京子 様

あなたの会費が、社協の
地域活動を支えています

会員として、次の方々に
ご加入いただきました。

(敬称を省略させていただきます)

9月1日～9月30日受付分

〔漆生中央〕藤川喜美子、田中茶舗(二口)、漆生中央2組(三口)

〔口春〕橋本武彦、池野末光、平川康徳、石井久喜、大畑弘、福澤義久、永川義彦、宮園幸男、野村博昭、安部英三、安部隆嘉、古江精二、福田秀明、中原一雄、野見山好春、松岡洋二、安部浩勝

〔山野第〕藤春貞祐

〔鴨生町〕永石かほる

〔平東〕高松徳一、平川勝利、佐伯照雄、岩井モリ子、梶原恵子、梶原信義、柴田迪二、三木泰信、石川芳太郎、入江加寿美、矢羽田正人、小坪敏子、花田テル子、正池健治郎、内野ヒサヨ、縄田進、梶正司、中嶋シヅ子、松尾美代子、杉原芳子、佐藤侃恵、森本富江、小淵清美、西田鉄也、加藤友二郎、芳野正則、酒井ヒロエ、松尾正則、橋本進、岩本紀子、篠原千登勢、下土居幸子、力竹政子、佐藤正、梶原清、柴田義美、鷺山誠、島田美喜子、金部秀男、佐野曉美、安部緑、丸山光男、藤田義輝、堤勝、宇野泰司、山本重勝、田中弘光、久保田範子、野田慎一郎

〔下宮〕坂本智恵子、内橋正、井上学、平野千恵子、林田一輝、椿甫、石松初美、仲道正行、小野京子、今村きよ子、松岡伸彦、佐野敦、有吉国土、松岡ミツ、大里二男、井上正一、矢野栄一、都築光一、加来京子、大塚秀樹、本岡サナエ、大上啓子、古賀聖一、重松嘉隆、重松鈴子、山藤やす子、廣谷マリ子、篠原孝一、森茂、仲道庸正

〔木城〕葛尾勉

〔中央〕大塚雪子、三浦一恵、明石睦則、松岡孝、佐伯久美子、坂本玉子、須崎醇二、山本トミ子

〔蛭子〕児玉孝子

〔さくらが丘〕廣崎智

〔石ヶ崎〕仲道輝子、江藤友喜、古賀道人、岩田順一、山田信之

〔笹原〕井関信子

〔上西郷〕野見山良子、野見山栄一

〔下牛隈〕石井久人、石井辰子

〔牛隈北区〕永末仁美、杉岡信子



ふるさとへの手紙 No.117



神奈川県平塚市
在住
石井 巖さん
上臼井下出身

故郷をつなぐ筑豊弁

「元気にしちよるね、今なんしよると」この一言で私はすぐに碓井の人に戻ります。

臼井駅から上山田発の一番電車に乗り神奈川へ向かったあの日から五十四年が過ぎました。私は今、神奈川県平塚市に住み保護司をしています。十八歳で故郷を出て遠く離れた地で暮らしていると、年を重ねるごとに故郷への想いは強くなるばかりです。

夏休みには宿題もせずにパンツ一枚で、自転車の部品で作った「鉄砲鉾」を持って、家を飛び出して朝から夕方まで川で遊び、秋には山で「みそんちよ」と言っていた小さな青い木の実を食べ、舌が青くなり「青い鳥小鳥なげなげ青いみそんちよを食べた」とふざけて歌っていたことを憶えています。



鍛錬遠足と称していた秋の遠足では、小学校六年で古廻山に登り、中学三年では秋月城址公園まで行ったことが忘れられません。中学校では先生から数え切れないほど戴いた愛の往復ビンタも懐かしく思い出されます。両親も今は亡く、炭住街もボタ山も姿を消し、故郷は段々遠くなってきましたが、そんな中で故郷を強く感じる事が出来るのが毎年行っている碓井中学校の同窓会で会える同級生と筑豊弁です。日本全国で方言が消えていく中で、私が愛して止まない筑豊弁も例外ではありません。同窓会で私は皆に筑豊弁で自己紹介することを求めますが、標準語の中に時々筑豊弁という人が多くなりました。それでも筑豊弁は私に残された唯一と言える故郷ですから、これからも体が許す限り同級生と筑豊弁に会いに帰ります。

コラム 交差点

水俣から路上へ

今年の夏は「熱」かった。7月15日の衆議院特別委員会での強行採決を受けて、友人たちとFYM(Fukuoka Youth Movement)という安保法に反対する若者グループを立ち上げた。それから約3ヶ月間、路上に立ち、安保法反対の声を上げてきた。そもそも、私が政治に関心を持つようになったのは、「水俣」という場所を知ったことがきっかけだった。

大学2年の時に、大学のゼミで生まれて初めて水俣を訪れた。それ以来、10回ほど訪問した。水俣では、資料館を訪れたり、患者さんや、ずっと水俣で患者さんのお話を伺った方など水俣に関わる様々な方のお話を伺った。また、患者多発地域を訪れたり、水銀の含まれた汚染水が垂れ流された排水溝を訪れたりとフィールドワークも行った。水俣病は、来年公式確認から60年を迎える。しかし、まだ苦しみ続ける患者さんがいて、認定

裁判は現在も行われている。それまで「水俣病は四大公害病の一つ」という教科書程度の知識しか知らなかった私は、60年経った今も続いている現実を突きつけられ、頭をハンマーで殴られたような思いだった。戦後、日本は経済成長とともに豊かで平和な社会になったと当たり前のように私は思っていた。しかし、高度経済成長の裏で水俣は犠牲になった。実は私が生きている社会は犠牲の上で成り立っていた社会だったのだと、気付いた。今まで信じて疑わなかった「平和な日本」は隠された犠牲の上での平和であり、実はまやかしたのだ。

そういう現実を知る度、どうしたら犠牲なくみんなが生きやすい社会になるのかを考えるようになった。その延長線上に、今回の安保法の問題もあった。採決はされてしましたが、私はまだ諦めない。法律が成立するしないではなく、他者の存在を認め、誰もが生きやすい社会を一人ひとりが考えること、考え続けることが本当の平和につながる。信じているからだ。

(西南学院大学 熊川 果穂)

編集後記



(きはら)

P2の講座では、村瀬さんの話を聞きながら、「ありのままに老いる」ということを自然に受け入れていない自分に気づきました。認知症という言葉に踊らされずに、老いを迎えることを考えていきたいと思いました。



(みそくち)

炭鉱の記憶の取材では、貴重な写真から当時の子どもの娯楽や地域の様子などを教えていただき、炭鉱で栄えた元気な時代をより具体的にイメージすることができました。



(たけがわ)

街頭募金では小さな子どもさんも募金してくれました。お母さんに促されながら、恥ずかしそうに募金箱の中にお金を入れてくれました。赤い羽根とドラえもんバッジを受け取り、帰って行くうしろ姿は少し誇らしげに見えました。



(あかま)

今月のえがおの取材に快く応じていただき、いい笑顔をとることができて嬉しかったです。これからたくさんの方に出会い、いろんな話を伺いたいです。



(まる)

今月の一冊で紹介した本の中で「気にしていることは、自分だけに大きく見える」という言葉がありました。私も気にしすぎる傾向があるため、考えを変えていきかけとしていきたいです。



(ごうはら)

表紙の取材で山田中学校柔道部に伺いました。8月に行われた全国大会でも活躍されたそうです。みなさん一生懸命に練習をしていて、とても迫力がありました。



(ながの)

かま権利擁護センターでは、高齢者や障がいを持った方の困りごとを、解決に向けて一緒に考えています。一人で抱え込まず、お気軽に相談してください。